

魅惑のランプ

—古代地中海からヨーロッパ、アジア・日本まで—

Enchanted by Oil Lamps

2018年1月20日(土)～4月1日(日)

Saturday 20 January to Sunday 1 April 2018

人類が火を手に入れ、火を操るために油を使ったランプを発明したことは生活上画期的なことです。ランプはユーラシア各地で古くから使われ、地域や時代によって多種多様な形に作られました。ランプは照明のためだけでなく、時には死者を送るためにも用いられました。本展では、世界有数のランプ数を誇る中山コレクションの中から約230点を展示し、古代地中海からイスラム世界、近現代の南アジア、ヨーロッパ、そして日本に至るユーラシア各地のランプの魅力をご紹介します。また、特別に「日本のあかり」として、横浜市指定文化財の灯火具コレクションの一部を公開します。



真鍮製ランプ
インド 19-20世紀

会場 3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery
観覧料 一般300円 小・中学生150円
Admission ¥300 for adults
¥150 for primary and junior high school students

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m. ～ 5:00 p.m. (券売は4:30 p.m.まで)
2018年1月8日(月・祝)、2月9日(金)、3月10日(土)は
午後7時まで(券売は6:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)
年末年始(12月28日～1月3日)他
2018年1月19日(金)は、展示替えのため休館します。

観覧料 一般200円、小・中学生100円
特別展・企画展開催中は料金が変更になる場合がございます。
毎週土曜日は小・中学生、高校生無料
「障害者手帳」、横浜市の「濱ともカード」等をお持ちの方には、
入館料の減免制度がありますのでお尋ね下さい。



12 Nihon Odori, Naka-ku, Yokohama, Japan 231-0021
Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

Hours 9:30 a.m. - 5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)
Open until 7:00 p.m. on 1/8, 2/9, 3/10
(Admission until 6:30 p.m.)

Closed Mondays (except holidays),
Year-end/New Year's recess (28 Dec. to 3 Jan.),
19 January 2018 (change of exhibition)

Admission ¥200 for adults
¥100 for primary and junior high school students

みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口すぐ
JR「関内駅」南口・市営地下鉄「関内駅」1番出口から
徒歩約10分
市営バス「日本大通り駅県庁前」下車徒歩1分
Zero min. walk from Nihon Odori Sta. on the Minato
Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta. on the JR Line or
Municipal Subway.
1 min. walk from Nihon Odori Kencho Mae Bus Stop
of the Municipal Bus.

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

アートウォッチング
Art Watching

2

イスラムの緑釉ランプ

Islamic Oil Lamp

ギャラリートーク
Gallery Talk

4

「日本のあかり」素描

“Japanese Lamps”

藏品紹介
The YMEAC Collection

6

絨毯 Carpet

青銅鏡 — 新寄託資料紹介 —
Ancient Mirrors in YMEAC: Recent Additions

8

催し物案内
Exhibitions and Events

10

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

No. 28

イスラームの 緑釉ランプ

Islamic Oil Lamp

竹田多麻子 Tamako Takeda



イランなどのイスラーム世界で使われたランプです。まるで急須のような形をしています。油と灯芯を使って火を灯しました。壺形の上部の穴から油を注ぎ、真横に伸びている注ぎ口のところに灯芯を置きます。毛細管現象で灯芯が油を吸い上げ、その先端に火をつけました。胴部には連続した円形が削り出され、装飾のためだけでなく、手で持った時に滑らないように持ちやすさも考えられているようです。把手の上部には、角ばった注ぎ口とは対照的に、葉の形に似せた愛らしい装飾板がつき、首を後ろに回した2羽の鳥が左右対称に浮彫りされています。外面、そして内面も鮮やかな緑の釉薬で覆われています。釉薬による内面に覆われたガラス質の膜は、油が

土へ染み出すことを防いでくれます。また釉薬のかかったランプは、あかりを灯した時にガラス質の表面に光が反射して、闇夜の暗い中でもランプの周りがまるで輝いているように見えたことでしょう。

今から7500年ほど前にイラク、イランあたりで最初に本格的なランプが出現しました。形は皿形の土器で、灯芯を置くために口縁の一部をつまみ出しただけのシンプルなものでした。西アジアでは土製のランプが主流だったのが、今回ご紹介したような釉薬による様々な色のついたランプが広く出回るようになったのは、7世紀にムハンマドによって創始されたイスラームの教えが各地に広がってからでした。

This is an oil lamp used in the Islamic world. It looks like a teapot, though it is a lighting tool. Oil is poured into the hole at the top of the container, and a wick is placed on the beak that stretches straight.

The body of the container is continuously engraved with a circular shape. In contrast to the beak's angular form, there is a beautiful leaf-shaped decoration connected to the handle, with two birds turning their necks. The exterior and interior are covered by a green glaze.

Inside, a glassy film prevents the oil from soaking into the clay. The light is reflected on the glazed surface, and the exterior of the lamp would shine, even in the darkness.

The appearance of the first lamp mainly made of clay around Iraq and Iran was about 7500 years ago. Such colorful glazed lamps became widely available in West Asia after Islam, which was originated by Muhammad in the 7th century, spread to many areas.

この緑釉ランプは、横浜ユーラシア文化館企画展「魅惑のランプー古代地中海からヨーロッパ、アジア・日本までー」に展示されます。This work is on display for the YMEAC special exhibition "Enchanted by Oil Lamps."



イラン 10-11世紀
長 14.6 cm
中山コレクション
Iran 10th-11th century
L. 14.6 cm
Owned by Tomoo Nakayama
(Nakayama Collection)

「日本のあかり」素描

“Japanese Lamps”

平野 卓治 Takuji Hirano

企画展「魅惑のランプ」では、「日本のあかり」のコーナーを設け、横浜市指定文化財「灯火具コレクション」の一部を軸に日本の灯火具を紹介しています。ここでは近代のカンテラ・石油ランプ・ガス灯・電灯が登場する以前、古代から江戸時代までの「あかり」の様相を垣間見てみましょう。

日本神話では、火の神を産んで死去したイザナミを追ひ、イザナギは黄泉国を訪れます。「見るな」の禁を破り、イザナギは「みづら」に挿していた「湯津々間櫛」の歯に火を灯し、腐乱したイザナミの姿をみてしまいます。また、火に囲まれたヤマトタケルが、姑のヤマトヒメから授けられた袋を見ると火打があり、それで「向火」を起こしたことが伝えられ、発火具の存在が知られます。このような形で得られた「火」を、燃料を追加し、「あかり」として必要な時間、維持・管理するために適した用具として灯火具が考案されました。

古代国家には宮内省の管轄下に主殿寮という役所があり、宮中の「燈燭、松柴、炭燐」を担当しました。燈燭とは油火と蠟火で、松柴はかがり火・焚火の燃料、燐は庭燐で、主殿寮は宮中のあかり全般を管理していたのです。松は焚火の燃料として重宝されると共に、松の根を細かく割った脂松一ヒデ・シデと呼ばれる一を、土器や石・鉄で作った台の上で燃やしてあかりとしました。石作りの台はヒデバチと呼ばれます。

いつの頃からか植物や動物の脂を灯油として用いるようになりました。植物油はハシバミやツバキなどの木の実油から、中世にはゴマ・エゴマなどの種油となり、江戸時代にはナタネ油が主流となりました。イグサの髓や綿糸などを灯芯として火皿に入れ、それを押さえて点灯したのです。古代では土師器の坏などが火皿に転用されました。ムラのお堂の祭儀で使用された灯明皿や鉄製の火打金などは、横浜市内の遺跡からも発見されています。

火皿をのせる台は灯台と呼ばれ、様々な形のものが作られました。行灯も火皿を使用した灯火具です。本来は携帯用でしたが、提灯の発達に伴い、室内用の灯火具へと変化しました。置行灯・掛行灯・釣行灯など、独特の雰囲気を出す多様な行灯が生れました。江戸時代には火皿にかわる灯火具として秉燭が作られます。灯芯を支える舌状や筒状の突起や受台を中央にもち、灯油が外側にたれないように工夫された灯火具で、様々な形状のものが作られましたが、碗形のものは「たんころ」と呼ばれました。

液体の灯油に対して、持ち運びに便利な固形の燃料として蠟燭があります。日本へは仏教の伝来に伴って輸入されたと考えられます。蜜蠟燭や松脂營が使用されていましたが、16世紀には、ウルシやハゼの実を材料とした木蠟燭、いわゆる和蠟燭が作られ、普及しました。蠟燭を灯した灯火具が燭台であり、手燭、提灯でした。

このように、前近代には多くの種類の灯火具が作られ、様々な形で使用されていたのです。



発掘された火打金

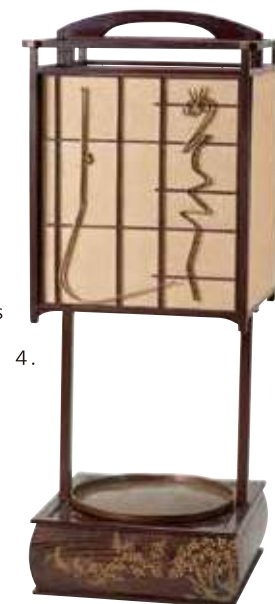
上) 勝田原遺跡(都筑区) 奈良・平安時代 幅17 cm
下) 旧長沢家住宅遺跡(都筑区) 室町時代 幅8 cm
横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター蔵
Excavated metal strikers
top) Kachidabara site (Tsuzuki-ku)
Japan, Nara-Heian Period W. 17 cm
bottom) Site of former Nagasawa house (Tsuzuki-ku)
Japan, Muromachi Period W. 8 cm



1. 発掘された灯明皿
権田原遺跡(都筑区)
奈良・平安時代
左の口径11.7 cm
横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター蔵
2. ヒデバチ
江戸～明治時代 径16.5 cm
3. 灯台
江戸時代 高20.7 cm
4. 行灯
江戸時代 高70 cm



1. Excavated earthenware vessels
Gontappara site (Tsuzuki-ku)
Japan, Nara-Heian Period
Left: D. 11.7 cm
2. Stone cresset
Japan, Edo Period-Meiji Period
D. 16.5 cm
3. Lampstand
Japan, Edo Period
H. 20.7 cm
4. Framed paper lantern
Japan, Edo Period
H. 70 cm



The YMEAC exhibition “Enchanted by Oil Lamps” will also showcase “Japanese Lamps” dating from ancient times through the Edo period prior to the emergence of gas and electric lights. The exhibits will be selected from the *Tōkagu* (lighting equipment) Collection (Yokohama City designated cultural properties).

Early references to fire starters and lighting can be found in Japanese mythology. In Japanese history, the imperial court had *shudenryō*, or a bureau in charge of lighting devices such as oil lamps and pine torches. Excavations in Yokohama have yielded ritual saucer lamps and metal strikers from ancient sites.

As source for fuel, plant-based oils of sesame and perilla seeds were used in the medieval times, while rapeseed oil became dominant during the Edo period. Lampstands to hold oil-filled vessels also developed, ranging from early portable *andon*, along with the collapsible *chōchin*, to standing *andon* for interior illumination as well as hanging types for the exterior. In the Edo period, *hyōsoku* lampstands with a hole or protrusion to hold a wick appeared in various shapes, replacing the earlier saucer type. Candles as solid fuel are considered to have originally been introduced to Japan along with Buddhism. In the 16th century, *warōsoku*, or Japanese candles, made from plant wax of *haze* tree instead of beeswax began to be produced. Candles were used with candlesticks and *chōchin*.

English abstract by Yasuko Fukuhara

The YMEAC Collection

蔵品紹介

絨毯

Carpet

綿の経糸・緯糸で織られた地組織に絹糸の毛羽を配置した美しい絨毯です。文様は、中心を飾るメダイオン、それを囲む縦長のフィールド、外側四隅のコーナー部分、そして五重のボーダーから成り、その全てが様々な草花で埋め尽くされています。16世紀以降、オスマン朝(1299-1922)では宮廷工房の写本彩飾師が陶器や織物にも下絵を供給しており、本作品の構図・文様にも、トプカプ宮殿壁面のタイル装飾との類似が指摘されています。デザイン化された植物の種類を特定するのは難しいのですが、チューリップ、ヒヤシンス、カーネーション、バラが、オスマン朝の首都イスタンブールの庭園で栽培されるほど人々に愛されていたことから、これらがオスマン朝の美術工芸品を彩る主要な文様になっていたことが十分に理解できます。オスマン時代には主に羊毛の絨毯が生産されましたが、より高価な絹を用いた作品も製作されました。

主要生産地である西アジアにおける絨毯の歴史・文化には、その研究があまり進んでいない日本では想像が及ばないほどの精神性が感じられます。絨毯は消耗すれば廃棄される日用品であるため16世紀以前の作品は極めて少ないのが現状ですが、コーランやアラブ文学には、絨毯は天の楽園に広げられる豪華な敷物であり、宮殿においては玉座を装飾し王権を象徴する芸術作品であると記されています。中でも、伝説の絨毯「ホスローの春」は、サーサーン朝ホスロー1世の冬の宮殿に、あたかも春の庭園を出現させたかのようにあったと後世にまで語り継がれています。また、ペルシア文学においては、人を乗せて飛翔したり河を渡ったりする絨毯の不思議が数多く伝えられています。いわゆる「空飛ぶ魔法の絨毯」は、この神秘主義的な超能力で操られるペルシア絨毯の奇譚を起源とし、世俗的な『千夜一夜物語』の一挿話を通して、ヨーロッパそして世界中に知られることとなりました。これは、近代ヨーロッパにおける

福原庸子 Yasuko Fukuhara

トルコ絨毯・ペルシア絨毯への強い憧れや関心の表れであったともいえるでしょう。

参考文献

江上綏、道明三保子、ヤマンラール水野美奈子『織り上げられた動物たちと花々 横浜ユラシア文化館蔵二作品の美術史的・文化史的考察』、世界思想社、2017年

Makariou, Sophie, ed. *Islamic Art at the Musée du Louvre*. Hazan: Paris, 2012

The design of this silk-pile carpet—a large medallion in the center of the field surrounded by borders, all filled with flowers—evokes what Ottoman court illuminators would provide for tile and textile artisans from the 16th century on. The choice of floral motifs clearly reflects the Ottomans' love of tulips, carnations, and hyacinths which abounded in their gardens.

In West Asia, carpets are more than floor coverings. The legendary Sasanian carpet which became the model for subsequent garden carpets was the immense "Khosrow's Spring" which Arabian historical annals record that it "brought the splendor of spring to the king's palace and made him forget winter." West Asian carpets have always attracted us with exotic fantasies such as "flying magic carpets" which can be traced back to Persian mystical literature.

絹(パイル糸)、綿(経糸・地緯糸)

トルコ(?) 17世紀後半～20世紀前半

縦288 cm 横189 cm

Silk (knotted pile), cotton (warp and weft)

Turkey (?), late 17th century to early 20th century

H. 288 cm W. 189 cm



Ancient Mirrors in YMEAC: Recent Additions

青銅鏡 —新寄託資料紹介—

2017年12月、古鏡の研究者であり収集家でもある林裕己さん（横浜市）から、青銅鏡資料7点をご寄託いただきました。

完形の5面は、後漢末から三国時代に中国の各地で製作されたと考えられるものです。内4点は、銘文に製作年代の記された紀年鏡で、鏡の編年を考える上でも貴重です。

青銅鏡2片は、同じ鋳型または原型を用いて作られたそれぞれ別の三角縁神獣鏡の一部です。内1片は、熊本県葦北郡から出土したと伝えられる京都大学総合研究博物館所蔵の青銅鏡片と接合することが判りました。三角縁神獣鏡は日本の古墳から数多く出土する一方中国での出土は知られておらず、古くから注目を集めてきた鏡群です。この2片も、出土地に関する情報を得て、三角縁神獣鏡研究上有用な資料となることでしょう。

これらの鏡については、『横浜ユーラシア文化館紀要』第1号および第5号に紹介されておりますので、併せてご覧いただければ幸いです。

ご寄託くださいました林裕己さんに、心から御礼申し上げます。

永康元年環状乳三神三獣鏡



中国
後漢永康元年（167）
青銅
径12.2 cm、重量416 g
Mirror
China
Eastern Han dynasty
Bronze
Diameter 12.2 cm, Weight 416 g

建安二十四年同向式神獣鏡



中国
後漢建安24年（219）
青銅
径12.1 cm、重量271 g
Mirror
China
Eastern Han dynasty
Bronze
Diameter 12.1 cm, Weight 271 g

In December 2017, Mr. Hiromi Hayashi deposited seven bronze mirrors with the Yokohama Museum of EurAsian Cultures.

Five of them are ancient Chinese bronze mirrors cast during the late Eastern Han dynasty and the Three Kingdoms period. [Mabuchi 2017]

The other two are fragments from two triangular rimmed mirrors with divinities and divines made of one mold or based on one model. One of the fragments can be attached to another fragment of the mirror belonging to the Kyoto University Museum collection, which is considered to have been excavated from the site at Ashikita, Kumamoto, Japan. [Morishita 2013]

〔文献〕

馬淵一輝 2017「林裕己氏蔵紀年鏡の新資料」『横浜ユーラシア文化館紀要』第5号、13～26頁、口絵1。 (Mabuchi, K., 2017. "The Introduction of Newly Discovered Dated Mirrors from Hayashi Hiromi's Collection," *Bulletin of the Yokohama Museum of EurAsian Cultures*, No.5, pp. 13-26, pl. 1.)

森下章司 2013「林裕己氏蔵三角縁神獣鏡と伝葦北郡出土鏡」『横浜ユーラシア文化館紀要』第1号、37～42頁、口絵3。 (Morishita, S., 2013. "The Study of the Fragments of the Triangular Rimmed Mirrors with Divinities and Divines 三角縁神獣鏡 in the Collection of Mr. Hiromi Hayashi," *Bulletin of the Yokohama Museum of EurAsian Cultures*, No.1, pp. 37-42, Pl. 3.)

三段式神仙鏡



中国
後漢
青銅
径15.0 cm、重量274 g
Mirror
China
Eastern Han dynasty
Bronze
Diameter 15.0 cm, Weight 274 g

甘露元年獸首鏡



中国
三国 魏甘露元年（256）
青銅
径16.5 cm、重量472 g
Mirror
China
Three Kingdoms (Wei)
Bronze
Diameter 16.5 cm, Weight 472 g

三角縁尚方作二神二獣鏡片



日本 熊本か
古墳時代
青銅
径22.4 cm
Mirror fragments
Kumamoto, Japan?
Kofun period
Bronze
Diameter 22.4 cm

永安二年对置式神獣鏡



中国
三国 吳永安2年（259）
青銅
径12.6 cm、重量328 g
Mirror
China
Three Kingdoms (Wu)
Bronze
Diameter 12.6 cm, Weight 328 g

企画展 3F

魅惑のランプ ―古代地中海からヨーロッパ、アジア・日本まで―

Enchanted by Oil Lamps

2018年1月20日(土)～4月1日(日)

Saturday 20 January to Sunday 1 April 2018

油と灯芯で火を灯すランプはユーラシア各地で古くから使われ、地域や時代によって多種多様な形に作られました。宗教的なモチーフやかわいらしい装飾、より使いやすいうように細やかな工夫が見られます。

本展では、世界有数のランプ数を誇る中山コレクションの中から約230点を展示し、古代地中海からイスラム世界、近現代の南アジア、ヨーロッパ、そして日本に至るユーラシア各地のランプの魅力をご紹介します。また、「日本のあかり」として、横浜市指定文化財の灯火具コレクションの一部も公開します。

会場 3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery

観覧料 一般300円 小・中学生150円

Admission ¥300 for adults / ¥150 for primary and junior high school students

真鍮製ランプ
インド 19-20世紀



関連企画

・企画展関連講座

- 第1回** 2月17日(土)「古代オリエントのランプ」
下釜 和也、津村 眞輝子(古代オリエント博物館研究員)
- 第2回** 2月18日(日)「イスラム世界のランプ」
竹田 多麻子(横浜ユーラシア文化館学芸員)
- 第3回** 2月25日(日)「横浜のガス灯」
青木 祐介(横浜都市発展記念館主任調査研究員)
- 第4回** 3月3日(土)「日本の神話・伝承にみるあかり」
平野 卓治(横浜ユーラシア文化館副館長)
- 第5回** 3月4日(日)「火打金の話」
畠山 禎(横浜ユーラシア文化館学芸員)

会場 2階常設展示室ライブラリー(受付は13:30～)
時間 14:00～(45分程度)※2月17日のみ1時間程度。
参加費 各回200円
(3階の企画展をご覧になる方は観覧券が必要です。)
定員 20名(申込不要、先着順)

・古代の墓室をのぞいてみよう!

ランプが多く出土したシリアのパルミラ遺跡の地下墓を再現。中に入ってランプの明るさを体感してみよう。

会場 1階ギャラリー
日時 会期中開催
参加費 無料

・ギャラリートーク

日時 1/21(日) 14:00～
2/9(金) 18:00～
3/18(日) 14:00～
各回30分程度
参加費 企画展観覧料のみ

・陶芸教室

「作ってみよう!自分のランプ」

粘土を使って自分の好きな形のランプを作ります。

講師 馬場 咲夫(深大寺陶芸教室)
日時 2月12日(月・祝) 14:00～16:00
会場 横浜情報文化センター1階 情文プラザ
参加費 1,000円(材料費・焼成燃料費込、送料別)
定員 50名(応募多数の場合は抽選)
申込方法 氏名(フリガナ)、住所、電話番号を明記の上、
往復ハガキまたはホームページからお申し込み下さい。
〒231-0021 横浜市中区日本大通12
横浜ユーラシア文化館「陶芸教室」係
<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>
申込締切 2018年2月3日(土) 必着

- ※1通につき2名様まで。2名様でお申し込みの際は同伴者のお名前もお書き下さい。
- ※ホームページからお申し込みされる場合は、ご用欄に「陶芸教室」参加ご希望の旨を明記してご送信ください。締め切り後メールにてご連絡いたします。
- ※EAハマ発会員は優先的に申し込みを受け付けます。お申し込み時に会員番号をご記入下さい。

ワークショップ

・火打石を使ってみよう! ・ローマランプ作りを体験!

会場 1階図書コーナー
日時 企画展開催中の土曜日、日曜日、祝日 9:30～16:30
(受付は16:00まで)
参加費 無料 ※材料はこちらでご用意します。



イベント

ゲルに集まれ!「スーホの白い馬」の世界へ Welcome to the Mongolian Ger!

2018年2月24日(土)～3月11日(日)

Saturday 24 February to Sunday 11 March 2018

横浜ユーラシア文化館の中庭に、ゲル登場!ゲル見学と会期中の関連企画への参加は無料、申し込みは不要です。当日中庭にお越しください。

ゲル公開

スーホも住んだモンゴルの伝統的なゲル(家)を展示公開します。

期間 2月24日(土)～3月11日(日)

時間 9:30～17:00

会場 中庭

※ただし、2/24はゲル組立て終了後に内部公開開始。3/11は16:30まで。

※2/26と3/5は月曜・休館日につきゲルもお休みです。

ゲルの組立て・解体

作業の一部に参加できます。小雨決行。

組立て 2月24日(土) 9:40～12:00(目標)

解体 3月11日(日) 16:30～17:00

会場 中庭

ゲル展示解説

モンゴルのゲルは草原の遊牧生活に最適!ゲルのおはなし、いたします。

日時 2月25日(日) 11:00～(30分程度)

3月3日(土) 11:00～(30分程度)

3月4日(日) 11:00～(30分程度)

会場 ゲルおよびその周辺

スーホの服を着てみよう!

モンゴルの民族衣装の試着体験。男子用の他、女子用・大人用もあります。

日時 2月24日(土) 13:00～16:30

2月25日(日)～3月11日(日)の土曜日・日曜日 9:30～16:30

会場 ゲル周辺

馬頭琴 きける!ひける!演奏会

モンゴルのおはなし会

3月10日(土)、11日(日)開催予定
※詳細は、決まり次第当館ウェブサイトおよびチラシでお知らせします。



ゲル公開



ゲルの組立て・解体



ゲル展示解説



馬頭琴 きける!ひける!演奏会

開館祭 2018 15th Anniversary Events

2018年3月10日(土)、11日(日)

Saturday 10 and Sunday 11 March 2018

2018年、横浜ユーラシア文化館は同じ建物の中にある横浜都市発展記念館とともに開館15周年を迎えます。

開館記念日の3月15日に先立ち、3月10日(土)と11日(日)を無料開館日とし、「ゲルに集まれ!」関連企画の他、さまざまなイベントを計画中です。

詳細は、決まり次第当館ウェブサイトおよびチラシでお知らせします。



臨時休館のお知らせ

展示替えのため、2018年1月19日(金) 常設展示室は休室します。